平成 21 年度　卒業論文

3 編の昔話を通じてみるトルコ昔話（マサル）の形式

東京外国語大学　外国語学部
南･西アジア課程トルコ語専攻
学籍番号　8505060
三村　麻衣

指導教官：林　佳世子教官

（40×30）

目次

序章 4
第１章　トルコ民間伝承（フォークロア）・トルコ昔話研究史 6
第１節　トルコにおける民間伝承研究の変遷 6
第１項　トルコ民間伝承研究の始まり 6
第２項　トルコ民間伝承研究の発展 8
第３項　トルコ民間伝承研究の最盛期 10
第２節　トルコ昔話収集史 11
第１項　外国人による初期のトルコ昔話収集 12
第２項　トルコ人によるトルコ昔話収集 13
第２章　トルコ昔話概論 18
第１節　トルコ昔話の定義 18
第２節　トルコ昔話の変遷 18
第３節　トルコ昔話の分類 19
第１項　動物昔話 19
第２項　本格昔話：非現実的昔話／現実的昔話 20
第３項　ほら吹きの昔話 22
第４項　形式譚 23
第３章　具体例の紹介 24
第１節　『キョセの物話―鳥足何本？』 24
第２節　『ものぐさ太郎』 28
第３節　『鈴付きしっぽのキツネ』 32
第４章　トルコ昔話の形式 36
第１節　トルコ昔話の枠組み 36
第２節　トルコ昔話の定型表現 37
第１項　発端句 38
第２項　つなぎの定型句 39
第３項　類似した状況で用いられる定型的言い回し 40
第４項　結末句 41
第５項　数・色・場所の定型表現 43

終章 45
文献目録 46

序章

“Masal bizi biz yapar.”　「昔話は私たちを、私たちたらしめるものだ」

この言葉が言い表しているように、昔話にはそれぞれの民族が持つ文化や伝統等の要素が詰め込まれている。

昔話は、存在するだけでは機能せず、人から人へ語り継がれることによって初めて、昔話として価値がある。口頭伝承で伝えられた現代の昔話の形は、誕生した時のものとは異なる。なぜなら語られる度に、言い回しや単語が変わっていくからである。語り手によって、語句表現や抑揚の付け方は様々である。母と子など、毎回同じ語り手と聴き手であった場合でも、各々の身体・精神状況や、語られる場所、時間帯が異なるため、一度として同じ形で、昔話が語られることはない。本稿では、このような特徴をもつトルコ昔話の形式について解説する。

使用した資料は、主にトルコ語で書かれた民間伝承の用語辞典、民間伝承研究書、トルコ昔話集、トルコ昔話研究書である。[1]

日本語の文献については、世界の昔話・童話大系、昔話の形態学に関する研究書を用いて、昔話の構造や用語を知るために活用した。[2]

本稿の構成は、まず、第 1 章でトルコ民間伝承・トルコ民話研究史を見ていく。まずトルコにおける民間伝承研究の発展について説明する。続いてトルコ昔話の研究史を説明する。民間伝承とは、口頭で語り継がれてきた昔話、吟遊詩人文学、英雄叙情詩等の伝承の

---

[1] Doğan Kaya, *Türk Halk Edebiyatı Terimleri Sözlüğü*, Akçağ Yay., Ankara, 2007

M.Öcal Oğuz, *Türk Halk Edebiyatı El Kitabı*, Grafiker Yay., Ankara, 2004

Pertev Naili Boratav, *Az Gittik Uz Gittik*, Istanbul, İmge Kitabevi Yay., 2006（1969 年に出版された著作の復刻版）

Saim Sakaoğlu, *Masal Araştırmaları*, Akçağ Yay., Ankara, 1998

[2]山崎光子、松村武雄訳『世界童話大系　第 11 巻トルコ・ペルシア篇』名著普及会、1988 年（1925 年に出版された著作の復刻版）

マックス・リュティ著、小澤俊夫訳『昔話　その美学と人間像』岩波書店、1985 年

小澤俊夫編『昔話入門』ぎょうせい、1997 年

ことである。本稿では民間伝承の一分野である昔話について詳しく見ていきたい。第 2 章トルコ昔話概論では、トルコ昔話の定義、トルコ昔話の変遷を解説した後、トルコ昔話を分類してその内容を見ていく。第 3 章では、トルコ昔話の具体例を 3 編紹介する。第 4 章では、第 3 章で挙げた具体例や、他の昔話の具体例を用いて、トルコ昔話の形式を解説する。

第１章　トルコ民間伝承（フォークロア）・トルコ昔話研究史

まず、第 1 節ではトルコ民間伝承研究の歴史について述べていく。第 2 節では、民間伝承の中で、昔話に焦点を当てて、どのような研究が行われてきたのかをみていくことにする。

第１節　トルコにおける民間伝承研究の変遷[3]

第１項　トルコ民間伝承研究の始まり

トルコで民間伝承研究が始まったのは、1839 年以降である。

まずタンズィマートの時代、改革勅令の後、民間伝承に注目していた 3 人の思想家について紹介する。イブラヒム・シナーシー、ナームク・ケマル、ズィヤー・パシャの 3 人である。彼らは西洋の文学や生活様式を目の当たりにし、西洋で発達した民間伝承研究手法をよく理解していた。

また、アフメット・ヴェフィク・パシャとハンガリーの民俗学者イグナズ・クノースの対話は、トルコで初めてフォークロア（folklor）という言葉が用いられた点で注目に値する。

では、イブラヒム・シナーシーからそれぞれの功績をみていくことにする。

İbrahım Şinasi(1826-1871)

まずイブラヒム・シナーシーは、トルコ民間伝承研究において初めて出典に注目した人物の内の一人である。ここでいう出典とは、民間伝承の語り手のことである。パリに国費留学した経験が、民間伝承研究だけでなく、政治分野でも活かされた。西洋の政治思想をトルコに紹介しようと努めたことで知られる。

Namık Kemal(1840-1888)

ナームク・ケマルは、ズィヤー・パシャとヒュリエット紙を創設したことで知られる。彼は、「祖国」という言葉を大衆に発信し、社会に大きな影響を与えた。ナームク・ケマルが民間伝承を研究対象とした主な目的は、アラブ・ペルシャ文学の影響下にあったディーヴァン文学を批判するためであった。民間伝承を言語の観点から研究したことで知られて

---

[3] 本章は、Oğuz, *Türk Halk Edebiyatı El Kitabı*, p.11-41 によった。

いる。

Ziya Paşa(1825-1880)

ズィヤー・パシャは、イブラヒム・シナーシーとナームク・ケマルが描いた民間伝承研究の道筋を引き継いだ人物である。その他、西洋化思想学、政治学、言語学、文学の領域でも活躍した。トルコ民間伝承研究史におけるズィヤー・パシャの最も重要な功績は、1868年にヒュリエット紙に載せた「詩と散文」（*Şiir ve İnşa*）という記事である。この記事で、ズィヤー・パシャはディーヴァン文学を痛烈に批判した。ディーヴァン文学には、アラブ・ペルシャ文学の影響が残っており、それ自身のアイデンティティを持たない文学であるとした。このことがトルコ民間伝承研究に関心を集める契機となった。

Ahmet Vefik Paşa(1823-1891)

アフメット・ヴェフィク・パシャは、西洋で起こっていた社会運動や民衆回帰の動きを目の当たりにしていた。その経験から、当時のオスマン帝国がすべきことを、明確な言葉で勇敢に発言することが出来たとされる。またトルコ人のアイデンティティを民間伝承に求めたことでも知られる。

アフメット・ヴェフィク･パシャとハンガリー人の研究者イグナズ・クノースとの対話はトルコ民間伝承史において重要であるとされる。クノースは、民間伝承学のアプローチを用いて収集をしながら、トルコ民間伝承を収集した人物である。1885 年、クノースは、アフメット・ヴェフィク・パシャとの対話において、トルコで初めて フォークロア（folklor）という語を用いた。下にその対話を示す。

アフメット・ヴェフィク･パシャ:「では、あなたはヨーロッパの東洋学研究者として身を立てたいのですね。素晴らしい。」

クノース:「その幸福に預かる前に、私はトルコ語を習得しなければなりませんよ。文学の様々な足跡から、民間伝承というものを探し出さなければなりません。」

アフメット・ヴェフィク･パシャ:「探求し続け、苦労を惜しまなければ、当然実現することができますよ。」[4]

このようにトルコ民間伝承研究は、ディーヴァン文学を批判することから始まったと言

[4] Oğuz, *Türk Halk Edebiyatı El Kitabı*, p.16

える。アラブ・ペルシャ文学の尾を引くディーヴァン文学と対比して、トルコ語による、トルコ人独自の民間伝承が注目され始めた。

第 2 項　トルコ民間伝承研究の発展

1839 年以降オスマン帝国では、オスマン・トルコ語の簡略化、国民、祖国といった概念の導入によるトルコ・ナショナリズムが発展した。しかし、それは政府が危険視するところとなり、思想家は政府によって処罰され、彼らの著書は発禁処分になった。このような状況にもかかわらず、イブラヒム・シナーシー、ナームク・ケマル、ジヤー・パシャ、アフメット・ヴェフィク・パシャ、スレイマン・パシャ[5]等は、文学活動を続けた。

19 世紀末になると、民衆の間でも、1897 年ギリシア戦争の勝利によって、「トルコ民族」としての自意識が生成され始めていた。[6] この頃スレイマン・パシャは「『オスマン人』のかわりに『トルコ人』という単語を使用することを望む」と述べている。[7]

第二次立憲政の時代になると、1908 年にトルコ協会（Türk Derneği）、1911 年にはテュルク・ユルドゥ協会（Türk Yurdu Derneği）が設立される。1912 年、トルコ協会によってトルコ協会誌（*Türk Derneği Mecmuası*）、トゥルク・ユルドゥ協会とトルコ協会による『テュルク・ユルドゥ』誌（*Türk Yurdu*）、セラニクでは『若いペン』誌（*Genç Kalemler*）が発行される。

この時代を代表する昔話研究は、ズィヤ・ギョカルプ、フアド・キョプリュリュらによってなされた。ここでは 3 人の思想家・研究者を紹介する。

Ziya Gökalıp(1876-1924)

トルコ民族主義者のズィヤ・ギョカルプは、トルコ民間伝承の活動でも大きな功績を残した。1912 年トルコ協会によって創刊された『人民へ』誌（*Halka Dogru*）で、「人民主義の始まり」（*Halk Medeniyeti –I Başlangıç*）という記事を発表した。ここでギョカルプは、トルコ民族は底知れない精神や豊かな文化を持っていると主張する。オスマン朝ではそれらが上手く活かされず、アラブ・ペルシャ文学の影響下にあるだけであったため、これか

---

[5] スレイマン・パシャ（Süleyman Hüsnü Paşa, 1838-1892）タンズィマート後期の軍人、政治家。トルコ・ナショナリズムの生成に寄与した人物。

[6] 新井政美『トルコ近現代史」みすず書房、2001 年、p.105

[7] Dursun Yıldırım, *Türk Bitiği*, Ankara, 1998, p.51

らはトルコ民族の文学を生み出すべきであるとした。またギョカルプは、「民衆文学」（Halkiyat）という語で、「フォークロア」の概念を紹介した。[8]

社会学者であったギョカルプは、民間伝承を社会学系列下の学問分野として紹介したことでも知られる。

Fuad Köplülü(1890-1966)

フアド・キョプリュリュはトルコ民族主義を、文学の中に位置づけようと尽力した人物である。1913 年ズィヤ・ギョカルプが初めて「民衆文学」という単語を使った半年後、キョプリュリュもその言葉を新聞記事で使用した。1914 年 2 月 16 日イクダム紙（*İkdam*）の「新しい学問：民衆文学・民間伝承」（*Yeni Bir İlim: Halkiyat Folklore*）という記事である。キョプリュリュは、この記事で、まずバルカン戦争でオスマン朝が失った領土や人命を嘆き、続いてトルコ人のアイデンティティとして民間伝承を収集すること、保護することの重要性を強調した。

キョプリュリュは 1924 年トルコ学機構（Türkiyat Enstitüsü）を創設した。これはイスタンブル大学文学部に所属し、トルコの歴史学、地理学、文学、言語学、民俗学について研究し、発表を行う機関である。

イスタンブル大学、アンカラ大学の言語歴史地理学部の当初の民間伝承研究には、キョプリュリュの研究が大きく反映された。

Rıza Tevfik Bölükbaşı(1869-1949)

社会学者ズィヤ・ギョカルプ、文学者フアド・キョプリュリュの後、「フォークロア」という語を使った 3 人目の人物が、哲学者ルザ・テヴフィク・ビョリュクバシュである。

1914 年 3 月 5 日のペヤム紙（Peyam）の付録で「フォークロア―フォーク・ロア」（*Folklor-Folk lore*）という題の記事が発表された。ルザ・テヴフィクは、ズィヤ・ギョカルプやフアド・キョプリュリュの記事について、また彼らが使用した「民衆文学」という語にも一切触れずに、哲学者としての自論を展開した。

この記事でルザ・テヴフィクは「フォークロア」のトルコ語訳として「共同体の哲学」（hikmet-i avam）を提唱した。まず「フォーク」（folk）と「ロア」（lore）とに分割して概念を理解しようとした。「フォーク」は「民族、共同体」（halk ve avam）という意味、「ロ

[8] Oğuz, *Türk Halk Edebiyatı El Kitabı*, p.16

ア」は「哲学、伝統」（hikmet ve adet）という意味を持つとした。それらを総合して「フォークロア」に相応しい訳語を「共同体の哲学」とした。

20 世紀に入り、トルコ協会、トゥルク・ユルドゥ協会が設立されたことで、口承文学研究が活発になった。協会が発行する雑誌や様々な新聞では「フォークロア」の解釈が、議論の的となった。このように、トルコ口承伝承研究の基盤が作られていった。

第 3 項　トルコ民間伝承研究の最盛期

1927 年 11 月 1 日アンカラで、ズィヤレデッン・ファフリ・フンドゥクオール、イスハク・レフェット・ウシュットマン、イフサン・マフヴィの 3 人によって、アナトリア民衆学協会（Anadolu Halk Bilgisi Derneği）が創設された。その後、トルコ民衆学協会（Türk Halk Bilgisi Derneği）に名称を変更する。歴史上初めて、独立したトルコ民間伝承の研究機関が創設された。トルコ民衆学協会は、「フォークロア」の対訳として「民衆学」（halk bilgisi）を提唱した。また民間伝承研究を一学問として取り扱うこと、西洋の研究を追うことが必要であるとした。1929 年 11 月 1 日から「民衆学ニュース」（Halk Bilgi Haberleri）という雑誌の刊行を始める。

1932 年 2 月 19 日、ナショナリスト組織「トルコの炉」（Türk Ocakları）の解散から約 1 年後、「民衆の家」組織（Halkevleri）が創設された。「民衆の家」組織の創設期、トルコ民間伝承の収集と出版は、最盛期を迎えていた。この時代に何十もの「民衆の家」が開設され、数多くの雑誌を発行した。「民衆の家」では民間伝承研究の傍ら、政治議論もなされた。ここから数々の政治的活動への見解を示した研究が発表された。1951 年 8 月 8 日に「民衆の家」は、19 年間の活動に幕を下ろす。

共和国初期の、トルコにおける民間伝承研究をリードしていったのは、ペルテヴ・ナイリ・ボラタヴ、メフメット・カプランであった。

Pertev Naili Boratav(1907-1998)

ペルテヴ・ナイリ・ボラタヴの重要な功績は、民間伝承を、ナショナリズムの道具としてではなく、一学問分野として捉えた点である。ボラタヴの口承文学研究のアプローチは、ヨーロッパにおける民間伝承研究のそれを用いている。またボラタヴが収集したテキスト

は数多く、学生のチームとアナトリアで多くの聞き取り調査に行ったことでも知られている。

ボラタヴは学術的なトルコ民間伝承の研究を加速させたが、一方では、彼の政治的見解が原因となり、反対勢力から受ける批判が、民間伝承の将来を失速させたとも言える。1947年ボラタヴは共産主義者であるとされ、アンカラ大学から追放された。そのため、トルコでの民間伝承研究は10年間禁止になった。しかしボラタヴは外国で研究を続けた。ボラタヴは、アメリカ合衆国ではスタンフォード大学フーヴァー図書館のトルコ部門の設立に貢献した。またフランスでも様々な機関で研究を続け、1952年フランス語で“*Les travauxde folklore turc(1908-1951)*”という記事を発表した。[9]

Mehmet Kaplan(1915-1986)

1930年メフメット・カプランは、エルズルムでキョルオールの研究を始める。この頃、民間伝承研究は「第二の春」を迎える。エルズルムの語り手から聞いた英雄叙事詩を1973年『キョルオール英雄叙事詩』（*Köroğlu Destanı*）にまとめる。この研究によってカプランは、民間伝承が再び大学で研究される道を開いたと言える。

このように、ナショナリズムの道具として利用されていた民間伝承は、政府による弾圧を受けた時代があった。しかし、それに屈せず、大学から追放されても外国で研究を続けたボラタヴなどの研究者らは、後進のために民間伝承研究を繋ぐ手立てをつくったといえる。

第2節　トルコ昔話収集史[10]

ここからは、昔話収集の歴史をみていく。

長年トルコ昔話は単に語り継がれるのみで、収集や研究が行われてこなかった。トルコ昔話は収集されるようになったのは、ここ200年ほどである。

トルコ昔話は、まず外国の研究者によって注目され収集が行われた。その後トルコ人によるトルコ昔話収集が盛んになる。

---

[9] Pertev Naili Boratav, *Les travauxde folklore turc(1908-1951)*, Anadolu Revue des Etudes d'Aechelogie et d'Histoire en Turquie, 1952

[10] Sakaoğlu, *Gümüşhane ve Bayburt Masalları*, p.37-47

ここでは、トルコ昔話研究に関わった研究者を順に紹介していく。

第１項　外国人による初期のトルコ昔話収集

M. Digeon

最古のトルコ昔話研究は、1781 年にディジョンよって行われた。ディジョンは、ランス王ルイ 16 世の通訳兼、秘書である。彼の著書 *Nouveaux Turc et Arabes* の第二巻には 5 編の昔話が連載されており、その内 3 編がトルコ昔話である。残りの 2 編はアラブ昔話である。本書では、1、3、5 番目に載っている昔話を、それぞれトルコ昔話であると紹介している。「ハーリル」（*Halil*）「デルヴィシュ」（*Le Dervische 'Derviş'*）「シルヴァンの商人」（*Le Marchand de Chirvan 'Şirvanlı Tüccar'*）の 3 作品である。ディジョンがこれらの昔話をどのように手に入れたのかは明らかになっていない。加えて本書には、トルコ文学とその歴史に関する記述が多数ある。中にはディーワン詩の翻訳や、法律が書かれている部分もある。

F. Wilhelm Radloff

ドイツ生まれのロシア人トルコ学研究者ウィルヘルム・ラドルフは、トルコ民族の民間伝承のテキストを全集化したことで知られる。その内の大多数が昔話である。1866 年には、全集 Proben der Volksliteratur der türkischen の第一巻を発表した。第一巻には、北シベリアトルコ民族のテキストを含まれている。1899 年に出版された第 8 巻には、オスマン朝時代のトルコ人の民間伝承の作品が記載されている。第 10 巻を発表したのは、1907 年であった。

İgnacs Kunos

ハンガリー人のトルコ学研究者クノースは、トルコ昔話研究の第一人者である。様々な地域で収集したトルコ昔話を複数の巻に分けて集成した。1887 年、第 1 巻 *Oszman-török nepköltesi gyüjtemeni I*[11]が出版された。その 2 年後、同名で、第二巻が発表された。1905 年 *Türkische Volksmärchen aus Stanbul*[12]と、1907 年 *Türkische Volksmärchen aus*

[11] İgnacs Kunos, *Oszman-török nepköltesi gyüjtemeni I*, Budapeşte, 1887, 1889
[12] İgnacs Kunos, *Türkische Volksmärchen aus Stanbul*, Leiden, 1905

Adakale[13] もクノースの代表的なトルコ昔話研究である。これらの著書においてクノースは、自身を「収集者、翻訳者、編集者」と称している。後年、この二つの研究書は「トルコ昔話集」（*Türk Masalları*）という名で多くの外国語に翻訳されることになる。

1925 年、クノースは『トルコ民衆文学』（*Türk Halk Edebiyatı*）[14]という本で、収集した昔話の分析法を説明した。昔話のテキスト研究をするだけでなく、昔話の役割や、昔話の効能、テケルレメ（tekerleme）[15]の定義等を明らかにした。

Enno Litmann

フィンランド人東洋学研究者エノ・リトマンは、フィールドワークの際、ビレジックとハレプの間に位置するザンブルに辿り着いた。そこに滞在し、昔話研究に没頭する。この間発見し、地域に根ざした昔話であると自身が判断した昔話集を、1901 年に発表した。[16]これまでのどの昔話にも類似していなかった。

このように、初期のトルコ昔話の収集は完全に外国人によるものであった。最初の昔話収集から一世紀以上後に、ようやくトルコ人による収集が行われるようになる。

第 2 項　トルコ人によるトルコ昔話収集

ヨーロッパのトルコ学研究者が始めた、トルコ昔話研究が刺激となり、トルコ国内の研究者も活動を活発にした。20 世紀初頭、ようやくトルコ人の手によって、自国の昔話収集始まった。ここでは、トルコ人がどのような収集活動をしてきたかを述べていく。

K. D.

トルコ人による最初の研究といえる作品は、1912 年に発表された「トルコ昔話集」（*Türk Masalları*）である。この本には K. D. という署名が付いているが、著者は明らかになっていない。この本について言及したのはズィヤ・ギョカルプ[17]であり、内容を紹介したのはボ

---

[13] İgnacs Kunos, *Türkische Volksmärchen aus Adakale*, Leipzig, 1907
[14] İgnacs Kunos, *Türk Halk Edebiyatı*, Istanbul, 1925
[15] Tekerleme とは、頭韻、脚韻を踏んだ関連性のない単語同士の連なりのことである。慣用的に用いられる。
[16] Enno Litmann, "*Ein Türkisches Marchen aus Nordsyiıen*", Kelei Szemle, 1901
[17] Ziya Gökalp, *Masallar*, *Küçük Mecmua*, 1922

ラタヴ[18]である。「トルコ昔話集」には 13 編の昔話がある。

Ziya Gökalp

1922 年、ディヤルバクルで『小雑誌』（*Küçük Mecmua*）を刊行する。本書に含まれる昔話は、後に発表される「アルトゥン・ウシュク」（*Altın Işık*）でも取り扱われている。[19]

『小雑誌』には、「トルコ昔話」（Türk Masalı）という章があり、その中に 7 編の昔話が含まれている。ギョカルプの昔話は、出来事の流れを重要視したものである。また、教訓的な昔話もある。

Bahtaver Hanım

1930 年、『トルコ昔話集』（*Türk Masalları*）を出版する。[20]民間人の口述を集めた 9 編の昔話が載っているが、収集した場所や人については記述がない。ここに載る昔話の内のいくつかは、トルコ全土で広く普及している昔話である。

Yusuf Ziya(Demircioğlu)

ユスフ・ズィヤは、「民衆の家」の創設期に、収集活動を行った研究者である。県の中心部だけでなく、遊牧者からも昔話を収集し、1934 年『遊牧民の話・昔話』（*Yürüklerde Hikayeler-Masallar*）で発表した。[21]本書に載っている 74 編の昔話は 3 つに分類されている。遊牧民・村人の物語(28 編)、動物の物語(32 編)、昔話(14 編)という構成になっている。

Suat Salih Asral

1935 年、メルシンで収集した 26 編の昔話を『土着トルコ昔話集』（*Öz Türk Masalları*）で発表した。[22] アスラルは、本書の前書きで学生の手伝いを得て昔話の収集を行ったこと、言語の間違い、余分な繰り返しは削除したことを記述している。

Naki Tezel

---

[18] Pertev Naili Boratav, *Zaman zaman İçinde*, Istanbul, 1959
[19] Ziya Gökalp, *Altın Işık*, Istanbul, 1923
[20] Bahtaver, *Türk Masalları,* Istanbul, 1930
[21] Yusuf Ziya, *Yürüklerde Hikayeler-Masallar*, Istanbul, 1934
[22] Suat Salih Asral, *Öz Türk Masalları*, Mersin, 1935

1936 年、『ケルオーラン昔話集』（*Keloğlan Masalları*）を出版する。[23]本書はこれより前に『民衆文学ニュース』（*Halk Bilgisi Haberleri*）という雑誌で発表されたことがある。ただし、誰から聞いた昔話かについては一切書かれていない。

1938 年にはイスタンブルで採集した昔話を『イスタンブル昔話集』（*İstanbul Masalları*）で発表する。[24] 本書には 72 編の昔話が収録されている。テゼルは、語り手が使った単語や表現を、そのまま文字にしたと語っている。また、テゼルは、本書に含まれる 13 編の昔話を、フランス語に翻訳し、1953 年に *Contes Populaires Turcs* を発表する。[25]

Mehmet Tuğrul

1945 年の秋にマラトヤで、昔話の聞き取り調査をしたメフメト・トゥールルは、その成果を 1946 年『マラトヤ昔話集』（*Malatya'dan Derlenmiş Masalları*）で発表した。ここには、12 編の昔話が収録されており、全ての昔話にそれぞれの語り手の情報が載っている。

またトゥールルは、本書を通じて昔話研究者への知識の提供もしている。「人称」「モチーフ」「環境」「ライフスタイル」「文法」「語り方」「伝達と変化」「比較」について、必要な知識を記した。

1942 年から 1946 年の間、トゥールルは博士論文『マフムト・ガーズィ村の民衆文学』（*Mahmut Gazi Köyünün Halk Edebiyatı*）を執筆した。ここには、158 編の民間伝承（昔話、笑い話、伝説）が収録されている。これを元にして、1969 年同名の本を出版した。ここには博士論文の 158 編の内、98 編の昔話と笑い話が本書に含まれている。　本書では、まずマフムト・ガーズィ村についての基礎情報を紹介している。次に昔話の「語り手」「材料」「分類」等を説明する。続いて、昔話のあらすじを紹介した後、全文が紹介されている。昔話の主人公がタイプ別に分類されている。

Pertev Naili Boratav

前述のボラタヴは、昔話の収集においても活躍した。ボラタヴは 1955 年からフランス語、ドイツ語、トルコ語の昔話本を 4 冊出版した。これらの著作に載っている昔話は、全てが自身で収集したものではなく、一部学生が採集したもの、他の本から引用したものもある。

---

[23] Naki Tezel, *Keloğlan Masalları*, Istanbul, 1936
[24] Naki Tezel, *İstanbul Masalları*, Istanbul, 1938
[25] Naki Tezel, *Contes Populaires Turcs*, Istanbul, 1953

ボラタヴが初めて発表した昔話本は、フランス語の *Contes Turcs* である。[26] ここにはテケルレメが 1 編と、21 編の昔話が収録されている。本書から選んだ 18 編の昔話に、4 編の昔話と 21 編のテケルレメを追加して、1959 年トルコ語で『時は時の中で』(*Zaman Zaman İçinde*) を出版する。全ての昔話の詳細情報が載っているのが本書の特徴の一つである。収集した時間、場所、語り手について、脚注に。本書の最重要部分の序章では、昔話とテケルレメについての研究が載っている。

ボラタヴがドイツ語に翻訳したトルコ昔話の数は、40 編に上る。1967 年には *Türkisch Volksmärchen* を出版する。[27] ここに載る多数の昔話は、母親から聞いたものであることが、脚注に書かれている。本書の 40 編の昔話の内 21 編に加えて、それまで未発表であった 27 編の民を追加して、1969 年トルコ語で『少し行きました、長く行きました』(*Az Gittik Uz Gittik*) を出版する。ボラタヴはここでも、全ての昔話について、収集した場所、語り手の情報を記している。トルコ昔話の発展の歴史について記した章もある。

Hulusi Yetkin

1962 年スルスィ・イェトキンは『ガーズィアンテプ民話集』(*Gazitantep'de Derlenen Halk Masalları*) という本を出版した。[28]ガーズィアンテプで収集された 100 編以上の昔話をまとめた『ガーズィアンテプ文化』(*Gaziantep Kültür*) という雑誌が元になっている。本書には、42 編の昔話と、3 編のテケルレメから構成されている。語り手の言い回しや表現は可能な限り原形を保っている。

Ahmet Edip Uysal と W. S. Walker

アンカラ大学言語歴史地理学部英文学科の教授であるアフメット・エディプ・ウイサルとウォーカーは、1966 年アメリカで *Tales Alive in Turkey* を発表する。1960 年からトルコの様々な地域で収集した昔話や笑い話から構成される。63 編の昔話と笑い話があり、全てのテキストの詳細情報が記されている。収集された場所、時間、語り手の情報が記載されている。

---

[26] Pertev Nail Boratav, *Contes Turcs*, Paris, 1955
[27] Pertev Nail Boratav, *Türkisch Volksmärchen*, Berlin, 1967
[28] Hulusi Yetkin, *Gazitantep'de Derlenen Halk Masalları*, Gazitantep, 1962

このようにトルコ国内でも昔話の収集活動が行われるようになった。トルコ人研究者からは、ガーズィアンテプ、マラトヤ、メルシン等、各地域の昔話集が多く発表された。

第２章　トルコ昔話概論

ここでは、トルコ昔話がどのようなものなのかを解説する。まず、第 1 節では、トルコ昔話の定義を見ていく。第 2 節トルコ昔話の成り立ちでは、トルコ昔話がどのように成立、伝播してきたかを説明する。また、語り手についても触れる。第 3 節トルコ昔話の分類では、『昔話の型』の分類に則って、トルコ昔話を分類して、内容を見ていく。

第１節　トルコ昔話の定義

トルコ昔話の定義を、シュキュル・エルチンは、次のように示している。

「不特定の場所で、不特定の個人や物体に付随する事柄についての出来事や物語」[29]

トルコ昔話では、時代とともに様々な要素が入り混じった物語が語られる。伝説や叙事詩では、少なくとも語り手・聞き手にとっては「事実」として語られるが、昔話では事実か否かは問題とならない。そのためか、トルコ昔話では、出来事が展開される時代が定まっていない。不特定の時間の中で物語が展開される。また、人づてに伝承されたため、トルコ昔話本文においては、過去形ではなく、完了形か超越形が使われる。会話文の中では、過去形、現在形等も用いられる。

またトルコ昔話は、基本的に散文の形式をとるが、一方で、登場人物の台詞が韻文で書かれていることもある。ただ、トルコ昔話における韻文の数は非常に少ない。

第２節　トルコ昔話の変遷[30]

ここでは、トルコ昔話はどのように生み出され、どのような語り手によって語られ、現代まで伝承されてきたのか、その変遷について述べていく。

トルコ昔話は、口頭で形を変えながら語り継がれてきた作者不明の民間伝承である。口頭で伝承・伝播したため、語られる度に伝える内容が変わる。それは、語られる場所、時間、状況などの環境が、語られる度に異なるからである。また語り手の状況、聞き手の状況も異なる。そのため、最初の形態を完全に保っている昔話は存在しない。

昔話が作られた初期の段階と現代では、昔話の形が異なる。様々な地域に伝播され、方

---

[29] Şükrü Elçin, *Halk Edebıyatına Giriş -Gözden geçirilmiş ilaveli yeni baskı*, Ankara, 2005, p.368

[30] 本章は、Elçin, *Halk Edebıyatına Giriş*, p.369 による。

言、宗教、政治等様々な要素が加わる。時代、地域、信仰によって内容にも違い生まれてくる。こうして形を変えた昔話が、語られ始めた地へ戻ってくることもあるという。

昔話は、時代とともに、また伝承される度に、変化する。そして、語りの形態が発展し、美的特質を獲得する。特に聞き手を昔話の世界に誘うために効果のある定型句が発達した。

昔話の語り手は、主に女性であった。「昔話の母」と呼ばれることもある。語り手は、日常的なトルコ語を用いて昔話を語る。昔話の文章の美しさは、熟練した語り手によってもたらされた芸術作品といわれる。語り手と呼ばれる人は、支配層と大衆の心理を噛み砕いて、昔話にして語り継いできた。このため、語り手は、常に周囲に尊敬されていた人物である。聞き手は、一般的には女性か子供である。地域の女性同士の共同体で、昔話は語られ、家に帰ってからは子供に語り継がれてきた。

19 世紀に入ると、民間伝承に対する関心が高まり、昔話は研究者によって記録され始めた。このことによって、昔話は、文書の形で残るようになった。20 世紀に入ると、トルコ昔話は、一つの学問領域として研究されるようになる。地域ごとの収集、分類、諸外国の昔話と比較研究等が行われる。現代では、昔話作家もいる。アフメット・ウミット『昔話の中の昔話』がその例である。[31]

第 3 節　トルコ昔話の分類

ここでは、トルコ昔話の分類法を確認し、それぞれの内容を見ていく。

トルコでは、国際的に共通の指標となっているアンティ・アールネ、スティル・トンプソン共著『昔話の型』[32]による分類が一般的である。本書によるとトルコ昔話は、動物昔話、本格昔話（非現実的・現実的昔話）、ほら吹きの昔話、形式譚ように分類できる。これらの項目を、ボラタヴの著書に基づいて解説していく。[33]

第 1 項　動物昔話

動物昔話は、動物を主人公とする話のことである。本格昔話よりも短く、笑い話と共通する性質をもつ。始めのテケルレメを持たず、つなぎの定型句もほとんど用いられない。

---

[31] Ahmet Ümit, *Masal Masal İçinde*, Istanbul, 1995

[32] Antti Aarne, Stith Thompson, *The types of the folktale: A Classification and Bibliography*, Helsinki, 1964

[33] 本節は、Pertev Naili Boratav, *100 Soruda Türk Halk Edebiyatı*, İstanbul, 1969, p.84-102 による。

動物昔話以外の昔話に比べて、定型句が重要視されていないのが特徴である。

動物昔話が語られるのは、現実世界で、自分の主張を補強したい時、例を挙げたい時、反面教師のような教えを導きたい時など、何か目的がある時である。笑い話も同じような目的で語られることが多い。

また、この昔話は子供に大変好まれる。その理由として以下の二つが考えられる。一つ目は、部分的に形式譚のようにテンポのよい展開が盛り込まれているからである。理由の二つ目は、冒険的要素が多いことが挙げられる。飽きっぽい子どもは、動きのある昔話を好むのだ。

動物昔話では、登場する動物たちが、それぞれの野生的な特徴を持たず、まるで人間のような振る舞いをする。このことは、昔話のつくり手やその周辺地域の人々が、人間の価値基準で動物を評価していたということである。

第 2 項　本格昔話：非現実的昔話／現実的昔話

本格昔話は、昔話という言葉から想起される最も典型的な昔話といえる。他の昔話と比較して本格昔話は長文である。それはこの昔話では、多くのキャストが登場し、出来事も複雑になるからである。ここでは、非現実的昔話と現実的昔話に分けて解説していく。

1.　非現実的昔話

非現実的昔話の主人公は、小人、妖精、巨人、ドラゴン等、現実には存在しない実存しない生物であることが多い。殆どの場合、それらの生物（小人や妖精等）は、動物の外見をもつ。非現実的昔話で登場する生物は、動物の姿を借りて現れるのである。そのため、トルコ昔話で登場する猫、蛇、鳥の多くは、超自然的な能力を持つのである。『ものぐさ太郎』で現れる「灰色のヘビ」がその一例である。このヘビがものぐさ太郎に教えた特別な呪文がきっかけとなり、物語が進行していく。

トルコ昔話において非現実的な要素は、行き過ぎた不合理さを持つものではない。小人、妖精、ドラゴン等の登場人物は、実際人間のような行動をとる。そのため、それらの生物は、聞き手を昔話の世界へ誘う役割をしている。

2.　現実的昔話

現実的昔話では、超自然的な存在はあまり語られることはない。この昔話で主人公となるのは、人間であることが多い。例えば、王、ケルオーランやキョセというキャラクター、泥棒、スリ、山賊、詐欺師などである。または、聡明さと良識を持ち合わせた貧乏人が裕福な権力者と知り合い、立身する昔話などもある。

ここでは、それら中でも出現頻度の高い王、ケルオーラン、キョセについて解説する。

王（Padişah）

まず、王は、好ましい人物としても、嫌われる人物としても登場する。トルコ昔話ほど、王を詳細に描いたものは類をみないとされる。

好感の持たれるタイプの王は、心が広い善行者、または民衆の権利を守る優れた統治者として描写される。昔話において、このタイプの王は、中流もしくは貧困層の美しい女性と結婚する場合が多い。

一方で王は、貪欲、気まぐれ、意志薄弱な統治者として描かれる場合もある。市民の成功に嫉妬し、彼に危険な任務を課す、もしくは、人間には不可能なことさせようとするのが典型である。最終的にそのような王は、自身の無力さに気付き降参するか、相応な罰を受けることになる。昔話の中であるとはいえ、王に対して冷酷な非難や罵倒を浴びせるトルコ昔話は、世界的に見ても稀である。

権力者、大臣、裕福な商人が先に述べたような王の役割をすることもある。彼らは、高い地位と金を行使し、欲望のままに全てを手に入れる人物として描かれる。更に、昔話では、教師、裁判官、イスラム法学者のように精神的な習熟を得た人物であっても、正しい道から外れてしまえば、辛辣な非難の対象となりうる。

ケルオーラン（Keloğlan）

次に、トルコ昔話の典型と言われるケルオーランを紹介する。ケルオーランは貧しい母子家庭に生まれた一人息子であることが多い。周囲から見下され、仲間はずれにされ、押しやられて育つ。性格は怠け者ではあるが、賢く、有能で、勘が良い。昔話の中で、ケルオーランは悪や権力と戦い、勝利や成功を収める。自らの力で逆境を乗り越えるケルオーランは、愛される主人公の典型である。昔話において、男女問わず、好まれる主人公像は、何もない地点から始まって、その頭脳や能力を発揮し、困難を乗り越え、幸せになる人物なのである。

ケルオーランの結婚相手は、貧しい家庭の聡明な少女であることが多い。このような典型を持つ話は、何世紀もの間、本質的な変化を遂げることなく伝承されてきた。そしてオスマン朝社会において実際の例を見出すことが出来る。オスマン朝では血縁による上流階級や、西洋的な意味でのブルジョワがいなかった。成功や資産は、階級に関わらず成功を収めた人が手にすることが出来るものであった。[34]このような実例が昔話の要素となっている。

キョセ（Köse）

最後にキョセについて説明する。ケルオーランが、聞き手の模範になるような行動をしていたのに対して、キョセは、周囲をからかったり、喧嘩を売ったりする。「悪ふざけ」を好むキョセは、聞き手にとって反面教師となる。聞き手は、キョセの昔話を聞き、周囲に迷惑を掛ける厄介者のキョセのようになりたくないと、不謹慎な行動をしないようになるかもしれない。

『キョセの話―鳥足何本？』では、キョセの典型的な行動が示されている。この話では、キョセが死んだ振りをすることから物語が展開していく。最終的に悪ふざけのつけが回ってきて、キョセは戒められる。

第３項　ほら吹きの昔話

ほら吹きの昔話の内容は、物語の中で繰り広げられる「ほら吹き大会」のことである。この大会では、最も驚愕的なほら吹き話をした人物が、褒章を与えられる、または勝負に勝ったと見なされる。

登場人物のほら吹き話をする際、語り手は三人称または一人称を用いる。三人称の場合は、登場人物のほら吹き話が間接的に語られる。一方、一人称を用いる場合は、語り手自身の実体験のように語られる。後者の場合、ほら吹きの昔話は、テケルレメの役割をしている。

始めにテケルレメが用いられない場合、語り手は途中まで三人称を使って話を展開させる。しかし、ある地点から、登場人物の一人に語りを委ねることがある。その登場人物に一人称で語らせることで、一人称のテケルレメに回帰することができる。巧妙な構成を持つ昔話である。

---

[34] Boratav, *100 Soruda Türk Halk Edebiyatı*, p.90

この他に、ほら吹きの昔話の種類に入るのは、狩猟の話や、田舎者を馬鹿にする話がある。

第４項　形式譚

形式譚は、始めと終わりに本文に関する端的な説明があり、真ん中の本文部分で、次々に連続して起こる出来事が語られるという構造を持つ。本文に見られる円環構造が形式譚の最も顕著な特徴である。つまり、取るに足りないような小さな出来事が、前後で呼応する形で、次々と起こる構造を持つということである。論理的に結び付いた事象の連続が、何回も連なって、一つの昔話が構成されている。

大概、物語がある地点まで進むと、そこから事象は逆方向に進む。つまり、形式譚では、最後の出来事が最初の出来事に戻り、最後に登場した人物が始めに登場した人物に向かっていく往復の構造をもっている。

分量は、事象が連続する回数や登場人物の数によって決まる。基本的には、長文にならないことが多い。早いテンポで展開され、短時間で終わる。

また形式譚の主人公は、殆どの場合、動物である。動物昔話の主人公も動物であるが、それとは構造が大きく異なる。また形式譚は、動物昔話のように教訓的要素を含まず、純粋に聞き手を楽しませたり、驚かせたりするために語られる。この高い娯楽性も動物昔話との相違点といえる。

構造を理解するために、具体例として次章で『鈴付きしっぽのキツネ』を挙げた。キツネが、松から鈴を返してもらえないことから物語が展開する。松を切り倒してもらおうと斧に依頼するが、断られ、今度は斧を燃やしてもらおうと火に依頼するが断られ、と次々に断られる。しかし最後に行き着いた老夫婦がキツネの依頼を承諾する。これが転換点となり、次々にキツネの思い通りになり、松から鈴を返してもらうという話である。シンプルな構造を持っていて、形式譚の典型例といえる。

このように、トルコ昔話は動物昔話、本格昔話、ほら吹きの昔話、形式譚の４つに分類することができる。

第３章　具体例の紹介

ここでは、トルコ昔話の具体例を紹介する。本格昔話の例として『キョセの話―鳥足何本？』と『ものぐさ太郎』、形式譚の例として『鈴付きしっぽのキツネ』を挙げる。

第１節　『キョセの物話―鳥足何本？』[35]

髭なし男のキョセがいました。ある日キョセは市場に行きました。市場で鳥足を 4 本買って、家に帰りました。妻にその 4 本の鳥足を渡しました。妻は鳥足を洗って、かまどに入れて、焼き上げました。その後妻はお腹が空いて、鳥足を一本食べてしまいました。そして、かまどの上に鍋を置いて、近所の家に出掛けていきました。

しばらくして、キョセが家に帰ってきました。鍋を開けると、鳥足は焼きあがっているようです。でも鍋には 3 本の鳥足しかありませんでした。

夕方になって、妻が家に帰ってきました。キョセは妻に訊きました。

「鳥足は焼けたかい？」

「焼けたわよ。」

「何本ある？」

「3 本よ。」

「おいおい、うそだろ。おれは 4 本買ってきたんだ。4 本あるはずだ。」

妻は再び、

「3 本です。」と言いました。

「なってこった、おれは死んでしまいそうだよ。鳥足は何本だい？」

「3 本よ。」

頑固なキョセは、バタっと倒れて、死んだ振りをし始めました。そうすることで、妻に「鳥足は 4 本だ」と言わせるつもりでした。しかし妻もまた頑固者でした。

旦那が死んだと言って、イマーム（礼拝時の指導者）を呼んでいたのです。周りにいた人々は、もうキョセを遺体洗浄台に乗せて、キョセの体を洗っています。またしばらくすると、キョセは顔をあげて、台の上で妻に訊ねました。

---

[35] Boratav, *Az Gittik Uz Gittik*, p.258-261, “43. Köse Ayak Kaç” 同書 p.331 によると、これは、1939 年、ボラタヴの母方の祖母、フトリイェ・テュレギュン 80 歳から収集された昔話である。彼女は 1890 年代にキリス県でこの民話を習ったという。

「鳥足は何本だい？」

「3 本よ。」と妻は言いました。

近隣の人たちは、キョセの体を洗い終えました。そしてキョセを棺桶にいれて、運びだそうとしました。キョセは、そばにいた人に

「ああ、お墓に穴を少し空けておいておくれ。妻が私に食べ物を持ってこられるようにね。」と言いました。

近所の人々は、キョセの棺桶を持ち上げ、運び始めました。妻はその後ろで嘆き悲しんでします。

「キョセ、キョセ、ああ、キョセ。

私が縫ったズボンに

足を通さずに死んだキョセ。

キョセ、ねえ！」

キョセは棺桶から顔をあげて、

「鳥足は何本だい？」と訊きました。妻は、

「3 本よ。」と答えました。

棺桶を運ぶ作業が再開しました。その時、妻は夫の死を悼んでいました。

「腕は長く、丈は短く、

埋葬着もまとわずに死んでしまったキョセ。

穴があいた水差しは水を汲めない、

お清めもせずに死んだキョセ。

キョセ、ねえ！」

キョセは再び顔をあげて、

「鳥足は何本だい？」と聞きました。妻が

「3 本よ。」と答えると、キョセはまた棺桶の中で、横たわりました。

一行はお墓に到着しました。近所の人は、キョセの棺桶を土に埋めました。でも一部分だけ穴を開けておきました。妻はいつも朝食と夕食を持ってきて、その穴から墓中に入れました。その度に

「キョセ、キョセ、ねぇ！」と叫びました。

すると、キョセは穴から顔を出して、

「鳥足は何本だい？」と訊きました。

妻もいつものように「3 本よ。」と答えると、キョセは墓に戻るのでした。

ある日、墓のそばをキャラバン（隊商）が通りました。そのキャラバンにはアレッポ県知事夫人がおり、妊娠していたのでした。辺りが暗くなってきたため、そのキャラバンは墓地で荷物を降ろし始めました。その晩、夫人は墓で出産しました。彼らはちょうどキョセの墓の隣に陣取っていました。夜が更けると、キョセは墓から出ていきました。そして産まれたばかりの赤ん坊を自分の墓に入れました。自分はというと、赤ん坊の代わりに夫人の隣で横になりました。朝になり、巨大なものを見た夫人やその従者らは、驚きのあまり固まってしまいました。従者らは、

「なんてことでしょう、こんなに大きな赤ん坊が存在するでしょうか。」

「ああ、誰にも見せないようにしなければ。」などと言い、赤ん坊を布で包みました。赤ん坊がありえない大きさであることは、夫人と従者らだけが知っていました。

知事夫人は大きな赤ん坊を連れて、アレッポ県に戻りました。民衆は、知事には巨体の赤ん坊が産まれたことを耳にしていました。

しかし、誰もがその姿を見ることができませんでした。邪気に曝されないように、ということでした。この大きな赤ん坊は、すぐに言葉を覚えました。クリームが食べたいと思ったらすぐに「ママお願い」と言うのでした。

それでは彼らをアレッポに残して、私たちはキョセの故郷に行ってみましょう。

キャラバンが墓で一夜を過ごした次の日も、キョセの妻はいつものようにキョセに食事を運びに墓場にやってきました。

「キョセ、ねぇ！」と叫びました。ふと気付くと、墓の中から赤ん坊の泣き声が聞こえます。すぐに穴に手を伸ばしました。するとなんと、へその緒が付いている、血まみれの赤ん坊がいました。妻は、

「ああ、あの最低男、キョセ。どれだけ他人を悲しませれば気が済むのかしら。」と言い、赤ん坊を抱き上げました。エプロンで包んだ赤ん坊を、家に連れて帰りました。それからキョセの妻は、赤ん坊にミルク等の面倒を見ました。そして家に来た人々に、

「この墓の前をだれが通りすぎたの？」と尋ねていました。

このときには、国中にあの秘密が広まっていました。「アレッポ県知事の妻がここに泊まった時、大きな赤ん坊が生まれた」という秘密です。人々はキョセの妻に、「アレッポ県知事夫人がここを通り過ぎたのよ。一泊して、墓場で出産したみたい。」

あの日から、1ヶ月、1ヶ月半が経っていました。キョセの妻は立ち上がり、赤ん坊を連れてアレッポに向かいました。道行く人に

「アレッポ県知事の妻は子供を産んだのですか。」と尋ねました。ある人は、

「産んだわよ、でも誰にも見せようとしないんだ。とても大きくて、雄牛みたいな赤ん坊らしいから、周りは邪気に曝されるのを恐れているんだって。」と言っていました。

出産後 40 日が経ちました。ハマムで、クルク・ハマムという生後 40 日に行われる儀式が行われることになっていました。キョセの妻もこの情報を聞きつけ、

「私もそのハマムに行こう。」と言いました。早速赤ん坊を抱いて、ハマムに行きました。キョセの妻は、清潔に着飾った美しい赤ん坊を抱いていました。ハマムの脱衣所から出てきた夫人の従者や招待客らが、赤ん坊をなでて、かわいがりました。従者はその赤ん坊のことを、知事夫人にも伝えました。

「外には一人の女性と赤ん坊がおります。とてもかわいらしく、愛嬌のある赤ん坊です。」と言いました。知事夫人はその赤ん坊に興味を持ち、ハマムから出ていきました。一目その赤ん坊をみると、夫人の血が躍りだしました。キスをして、撫でて、かわいがりました。その時、キョセの妻は、

「奥様、私もあなたのお子様を拝見いたしましょう、かわいがりましょう。」と言いました。知事夫人は従者に子供を連れてくるよう命じました。夫人の子供は、巨大な布に包まれていました。キョセの妻はその布を解きました。そして子供の顔を見ると、それはキョセでした。キョセの妻は、

「この、恥知らず！」と言いました。その後、知事夫人に、

「奥様、この赤ん坊はあなたの子です。こちらは私の夫です。」と一部始終を説明しました。これを受けて、この時まで巨大な赤ん坊をかわいがり、撫で、敬意をもって接してきた従者らは、キョセを包んでいた布を掴み、キョセをぼこぼこにしました。キョセはなんとか生きたままその場から逃げられました。

知事夫人は、キョセの妻を大変気に入り、側近にしました。キョセは、もはやどこかへ行ったのでしょう。自分が一本の鳥足に執着したせいで、妻や他人に迷惑を掛けたことをキョセは今更知ったのでした。

第２節　『ものぐさ太郎』[36]

あったことか、なかったことか。昔、おばあさんとその息子がいました。息子はいたずら好きで、ものぐさでした。おばあさんが「あんた、それやって、そこ行って」などと言っても、「ぼくはものぐさだからできないよ。行けないんだ」などと言うのでした。

ある日、近所の若者たちが薪割りに行くというので、おばあさんは
「頼むわ。私も息子も連れて行ってあげて。」とお願いしました。
すると翌日朝早く、近所の子供たちがものぐさ太郎を呼びにやって来ました。
ものぐさ太郎は、
「ぼくはものぐさだから、行けないよ。」と断りました。全く動こうとしませんでした。近所の子供たちは、力ずくでものぐさ太郎をロバに乗せて、山に連れていきました。そこではみんなが薪を割りました。そしてロバに薪を背負わせました。ものぐさ太郎は、だらけ始めました。木のそばで横になり、他の子を見ているだけでした。若者たちが
「おい、ものぐさ太郎、起きて君も薪を割ってよ。」と言う度、
「ぼくはものぐさだから。」と答え、動こうとしませんでした。
結局、村の若者たちは、ものぐさ太郎の薪も割ってあげて、ロバに積みました。
「さぁものぐさ太郎、起きて。もう行くよ。」するとものぐさ太郎は、
「ぼくはものぐさだから、行かないよ。」と座ってしまいました。これに対して、若者は
「そういうことならここに居ればいいじゃないか。オオカミが君を食べてしまうだろう。君のお母さんも（君が家から居なくなれば）楽になるだろう。」と言い、ものぐさ太郎をそこに残して、帰りました。
ものぐさ太郎がじっと座っていると、灰色のヘビがやって来ました。ものぐさ太郎を刺

---

[36] Boratav, *Az Gittik Uz Gittik*, p.151-155, “25. Üşengeç” 同書 p.322 によると、これは 1962 年、パリで母スドゥカ・ボラタヴ 75 歳から収集された昔話である。彼女が 12 歳の時、ゲムリックでウムルベイリ・エミネという女性から聞いた話だという。Üşengeç はトルコ語で「ものぐさな、ずぼらな、怠け者の」という意味をもつ。

そうとして、上に乗っかってきました。ものぐさ太郎は、
「刺したいのなら刺せばいい。ぼくはものぐさだから、起きあがって逃げたりしないよ。一度刺してみないで誰が怖がる？ものぐさがらずに、誰が立ち上がるんだよ？」と言いました。ヘビはこの言葉がとても気に入りました。そして、
「ものぐさ太郎！私にどんな願いを叶えてほしいかい？」と言いました。ものぐさ太郎はいつもの調子で
「ぼくはものぐさだから、なにもいらないよ。」と言いました。そしてヘビが
「いつでも困った時には、『神様のご命令通り、灰色ヘビの言葉通り』と言って、願い事を言ってごらん。そうすれば君の欲しいもの全てを持っていくよ。」と言って、ヘビはその場から立ち去りました。

ものぐさ太郎は、座りこみました。ただずっと座るだけでした。お腹が空きました。その時、ヘビの言葉を思い出しました。ものぐさ太郎は、
「神様のご命令通り、灰色ヘビの言葉通り、ぼくにスープを。」と言いました。その瞬間、大きなカップに入ったスープが現れました。ものぐさ太郎は、お腹いっぱいになりました。そして木のそばで横になり、眠りにつきました。

朝が来て、ものぐさ太郎は再び食べ物をお願いし、空腹を満たしました。その後、ある悪知恵が頭に浮かびました。そして、
「神様のご命令通り、灰色ヘビの言葉通り、皇女に、私の子供を妊娠させよ。」と言いました。

ものぐさ太郎はしばらくして、山頂に行きました。何もすることがなく退屈になると、
「神様のご命令通り、灰色ヘビの言葉通り、私を家に連れて行け。」と言いました。ふと気付くと家に着いていました。ものぐさ太郎の母親は
「なんで来たんだい。山に居たまま、死んでしまえばよかったのに。」と言いました。ものぐさ太郎は、
「山でヘビと出会ったんだ。ヘビはぼくのどんな望みでも叶えてくれるんだ。」と言い、一部始終を母親に話しました。母親は喜んで、
「そういうことなら、沢山の食べ物をお願いしてみなさい。」と言いました。ものぐさ太郎は、
「神様のご命令通り、灰色ヘビの言葉通り、ぼくたちに食べ物を。」と言うと、家に盛りだくさんの食べ物が現れました。二人はそれらを食べ、満腹になりました。

さて、親子のことは置いておきましょう。昔話では時間が早く流れるのです。

皇女のお腹が日に日に大きくなっていきました。お嬢様には何が起こっているのか訳がわかりませんでした。9ヶ月と10日目、彼女は男の子を産みました。王は激怒し、娘を殺そうと立ち上がりました。そして娘に問いかけました。

「この赤ん坊は誰の子だ？」娘は泣きながら、

「分からないわ、お父様。」と答えました。高官が同情し、集まってきました。そして王に向かって、

「王様、お嬢様を殺さないで。赤ん坊が大きくなるのを待ちましょう。赤ん坊がお父さんと呼んだ人物が、その子の父親です。」

娘は部屋に閉じ込められ、わずかな食べ物しか与えられませんでした。7年間、その部屋で監禁されていたのです。そして 7 年経ったある日、高官が招集され、ある決定が下されました。仲介人を呼び、決定を発表しました。

「年寄り、若者問わず、この国に居る全ての男は、城前の広場に来てもらうことになった。」

この国にいる男全員がそこに集合しました。子供も広場の椅子に座りました。男たちに一人ずつ、子供の前を歩かせました。しかし、子供は誰にもお父さんと言いませんでした。王は

「もう誰も残っていないのか？」と訊きました。高官は、

「ある民家にものぐさ太郎というのがおります。ここに来ていないのは彼だけです。」と答えました。すると王は、

「ならば、そいつも連れて来なさい。」と命令しました。ものぐさ太郎は、無理やり担架に乗せられ、広場に連れてこられました。子供はものぐさ太郎を見たとたん、「お父さん」と駆け寄り、抱きつきました。王はこの光景に激高し、娘も孫も追い出し、ものぐさ太郎の家に行かせました。

夕方、娘は考え始めました。「この苦難は一体何なのだろう。」と。これに対し、ものぐさ太郎は、

「神様のご命令通り、灰色ヘビの言葉通り、王のお嬢様に適切な食事を。」と言いました。その瞬間、素晴らしい食事が用意されました。娘はようやく彼の秘密を知りました。自分がなぜ身ごもったのかも理解しました。

次の日、娘は、

「さぁものぐさ太郎、ヘビにお願いしてよ。あの海岸に、私たちのお城を建てましょう。そしてそこへ引っ越しましょう。」するとものぐさ太郎は、

「いや、ぼくはものぐさだから、そんなこと言えないよ。」と断りました。娘は諦めずに、毎日ねだって説得に成功しました。ものぐさ太郎は

「神様のご命令通り、灰色ヘビの言葉通り、あの海岸に王のお嬢様に相応しい城を建てよ。」と言いました。

翌日二人が目覚めると、向かいに今まで見たことのないお城が見えました。壁は全てエメラルドとルビーで出来ています。二人はお城に引越し、快適に暮らし始めました。

ある日、王と高官が海岸に散歩に出かけました。娘は遠くにいる父親を発見すると、すぐに男性用の上着を着るなど男装をして、海岸に降りていきました。王は、娘とは気付かず、男に扮した自分の娘のことを気に入りました。娘は王に言いました。「どうぞ、ぜひ家で食事しましょう。」王は、高官らと一緒に娘についていきました。

そしてお城に着きました。王はお城を見ると、驚きました。人生でこのようなものを見たことがありませんでした。お供も一緒に中に入りました。お供の者は、ダイニングに広がる金の皿に載った美味しそうな料理に目移りしていました。本当にきらびやかなので、驚いて当然です。

食事が終わるとすぐ、娘はものぐさ太郎に懇願しました。

「お願いよ、ものぐさ太郎、ヘビにお願いして。父に気付かれないように、父の袖に金のお皿の蓋を入れて。」ものぐさ太郎は、

「神様のご命令通り、灰色ヘビの言葉通り、王の袖に金のお皿の蓋を入れよ、気付かれないように。」と言いました。しばらくすると、王たちは別れを告げ帰っていきました。そして一行は舟に乗りました。ちょうど舟が砂浜から離れる時、娘が窓から旗を降ろしました「待ってください、行かないで。」と叫びながら、走って下りてきました。

「王さま！うちの金の皿の蓋が見当たらないのです。たぶん、護衛の一人がもっていったのでしょう、調べていただけないでしょうか。」

王は、護衛たち全ての服を脱がせて、検査させました。高官や大臣にも検査の順番が回ってきました。王は

「それから、私のことも検査したまえ。疑いの残らないようにな。」

王は服を脱ぎました。その時、蓋がコンと落ちました。王は

「なんということだ。何も知らない私の袖にどうやって入ったのだろう。」と言いました。その時、娘は帽子を取り、髪を解きました。

「お父さん！あの時の私も、一体なんと言えたでしょうか。赤ん坊は、私の知らぬ間に、お腹に居たのだから。」と言いました。

王は、男の正体が自分の娘だったと分かりました。二人は抱き合いました。娘は王に、ものぐさ太郎の特殊な能力のことを説明しました。

王は 40 日 40 夜、結婚式を開いてあげました。

この時まで、娘はものぐさ太郎のことを、夫としてみていませんでした。結婚式の日から、ものぐさ太郎は、ぐうたらと怠け癖から脱却しました。美しい子供もおります。全ての願いが叶って、幸せに暮らしました。

みんな幸せになりました。私たちは元の世界に戻りましょう。

第 3 節　『鈴付きしっぽのキツネ』[37]

むかしあったことか、なかったことか。一匹のキツネがいました。そのキツネのしっぽには、鈴が付いていました。

ある時、キツネにも清めの儀式をする時がやって来ました。考えた末、キツネは儀式のために 7 年間の旅に出ることにしました。しっぽの鈴を松の若木に掛けて言いました。

「ねぇ、松さん！ぼくが帰ってくるまで、この鈴を君に預けるよ。帰ってきたら、またもらうからね。」

7 年が過ぎて、更にまた 7 年が経ちました。14 年の間に、若木だった松は、立派な大樹になりました。キツネは松に

[37] Boratav, *Az Gittik Uz Gittik*, p.43-45, “9. Kuyruğu Zilli Tilki” 同書 p.314 によると、これは 1964 年、イズミル県ウルラ郡バーデムレル村で、マンスル・テキン 50 歳から収集された民話である。ペルテヴ・ナイリ・ボラタヴの妻であるハイルンニサ・ボラタヴが聞き取りを行った。

「松さん、ぼくの鈴をちょうだい」と言いました。すると松は、
「いやだね」と答えました。またキツネは
「私の鈴を返してよ」と言い、松はまた
「いやだね」と答えました。するとキツネは松に、
「君ことを斧に言いつけるよ。斧に君を切り倒してもらおう。」と言いました。そして斧のところへ行きました。

キツネは斧に、
「斧さん。あっちに松の木があるんだ。あれを切ってよ。」と言いました。斧が、
「なんでぼくが松の木を切らなきゃいけなんだよ。ぼくはここで平穏に暮らしているんだ。」と答えると、キツネは、
「じゃあ君のことを火に言いつけるよ。火に君の持ち手を燃やしてもらおう。」と言いました。そして火のところへ行きました。

キツネは火に、
「火さん。あっちに斧があるんだ。あれを燃やしてよ。」と言いました。火が、
「なんでぼくが斧を燃やさなきゃいけなんだよ。ぼくはここでのんびり寝ているんだ。」と答えると、キツネは、
「じゃあ君のことを水に言いつけるよ。水に君の炎を消してもらおう。」と言いました。そして、水のところへ向かいました。

キツネは水に、
「水さん。あっちに火があるんだ。あれを消してしまってよ。」と言いました。水が、
「なんでぼくが火を消さないといけないんだよ。ぼくはここで優雅に流れているんだ。」と答えると、キツネは、
「じゃあ君のことを巨大な雄牛に言いつけるよ。雄牛に君を飲み干してもらおう。」と言いました。そして雄牛のところへ向かいました。

キツネは雄牛に、
「雄牛さん。あっちに水があるんだ。あれを飲み干しちゃってよ。」と言いました。雄牛が、

「いやだね、のどが渇いてないよ。」と答えると、キツネは、
「じゃあ君のことを巨大な怪獣に言いつけるよ。怪物に君を食べてもらおう。」と言いました。そして怪獣のところへ向かいました。

キツネは怪獣に、
「怪獣さん。あっちに雄牛がいるんだ。あれを食べてしまっておくれよ。」と言いました。怪獣が、
「なんでぼくが老いた雄牛を食べないといけないんだよ。ぼくはここで活きのいい子羊を食べているんだ。」と答えると、キツネは、
「じゃあ君のことを牧羊犬に言いつけるよ。犬に君を殺してもらおう。」と言いました。そして牧羊犬のところへ行きました。

キツネは犬たちに、
「犬さん。あっちに怪獣がいるんだ。あれを殺してしまってよ。」と言いました。犬が、
「なんでぼくらが怪獣を殺さないといけないんだよ。ぼくらはここの湖畔で寝ているよ。」と答えると、キツネは、
「じゃあ君らのことを羊飼いに言いつけるよ。羊飼いに君らを殴ってもらおう。」と言いました。そして羊飼いのところへ向かいました。

キツネは羊飼いに、
「羊飼いさん。あっちに犬がいるんだ。あれを殴ってしまってよ。」と言いました。羊飼いが、
「なんでぼくが犬を殴らなきゃいけないんだよ。ぼくはここで平穏に暮らしているんだ。」と言うと、キツネは、
「じゃあ君のことをネズミに言いつけるよ。ネズミに君のおできを食べてもらおう。」と言いました。そしてネズミのところへ向かいました。

キツネはネズミに、
「ネズミさん。あっちに羊飼いがいるんだ。あいつのおできを食べてしまってよ。」と言いました。ネズミが、

「なんでぼくがよぼよぼの皮膚を食べなきゃいけないんだよ。ぼくはここでミルクやヨーグルトの上を泳いでいるんだ。」と言うと、キツネは
「じゃあ君のことを夫婦の飼い猫に言いつけるよ。猫に君を食べてもらおう。」と言いました。そして猫のところへ向かいました。

キツネは猫に、
「猫さん。あっちにネズミがいるんだ。あれを食べてしまってよ。」と言いました。猫は、
「なんでぼくがネズミを殴らなきゃいけないんだよ。ぼくはここで美味しい食べ物と、新鮮なパンを食べているんだ。」と言うと、キツネは、
「じゃあ君のことを飼い主夫婦に言いつけるよ。彼らに君を叩いてもらおう。」と言い、飼い主のところへ向かいました。

キツネは、猫の飼い主夫婦に、
「おじさん、おばさん。あっちに猫がいるんだ。あれを引っ叩いてよ。」と言いました。おばさんが、
「どこにいるんだい。」と聞き返すと、キツネは、
「ほら、そこに」と言いました。
　すると、おばさんはすぐに棒を手に取りました。
「えい！お前はなんでネズミを食べないんだい？」と言いながら棒を猫に向かって投げました。
　猫はネズミに飛びつき、ネズミは羊飼いのおできに飛びつき、羊飼いは犬に、犬は怪獣に、怪獣は雄牛に、雄牛は水に、水は火に、火は斧に、斧は松の木に飛びかかりました。斧はキコキコと松の木を切りました。

　キツネは松の木から鈴を手に入れて、そのまま歩いていきました。

第４章　トルコ昔話の形式

ここでは、第 3 章で挙げた昔話 3 編を具体例としながら、トルコ昔話の構造の解説をする。まずトルコ昔話の輪郭を説明した後、形式上の特徴、特に定型句について詳細にみていくことにする。

第１節　トルコ昔話の枠組み[38]

トルコ昔話は三部構成である。始まり、本文、結末に分けられる。ここでは、それぞれの特徴を紹介した後、第 3 章で挙げた『ものぐさ太郎』を例に、トルコ昔話の輪郭を捉えてみる。

語り始め

昔話は、定型句で始まることが多い。詳しくは第 2 節で扱うが、この始めの定型句は、発端句と呼ばれる。これは無関係な単語の集結から構成されている。この部分は、お互いに無関連な単語が連なった言葉遊びである。聞き手の関心を引くこと、昔話が始まることを知らせるサイン、聞き手を昔話の世界に招き寄せ、慣れさせる役割を担っている。

発端句の後には、主人公の性格、主人公をとりまく環境について簡単に語られることが多い。

昔話本体

ここでは、主人公のある一日の出来事から語りが始まる。その後、様々な出来事が展開していく。一人称、三人称が使われる。時制については、過去完了形、現在形、超越形が用いられる。

また、昔話本体でも、様々な定型句が用いられる。時間の経過、場所の移動などの変化があった時等に使用される。前後の出来事を結びつける働き、ユーモアで昔話を彩飾する働きをもつ。

語り納め

最後に語り手は、昔話の内容に即した表現を使って、語りを終える。本文の名残を残し

---

[38] 本節は、Oğuz, *Türk Halk Edebiyatı El Kitabı*, p.140-142 による。

たものや、唐突に終わるものなど様々である。語り収めの定型句は結末句と呼ばれる。昔話一つ一つで異なる、独自の定型句が用いられる。結末句の中には、聞き手に、昔話の中の出来事が、あたかも実際に起きたことであるかのような感覚を抱かせることを目的としたものもある。

『ものぐさ太郎』の枠組み

では具体例として、『ものぐさ太郎』の輪郭を確認してみる。

この昔話の語り始めは「むかしあったことか、なかったことか。」で始まる一段落である。他の昔話でも多用される「むかしあったことか、なかったことか。」の発端句で、聞き手を昔話の世界に引き込んでいる。その後、おばあさんと息子（ものぐさ太郎）の日常的なやり取りが示され、本文につなげている。

本文は、「ある日、近所の若者たちが薪割りに行くというので」から「娘は王に、ものぐさ太郎の特殊な能力のことを説明しました。」までである。序文のやり取りを受けて、ものぐさ太郎を取り巻く出来事が展開される。薪割り、ヘビとの出会い、帰宅。皇女の妊娠、父親探し、二人の生活、王との再会、新事実発覚とつづく。

語り納めは、「王は 40 日 40 夜、結婚式を開いてあげました。」から、「みんな幸せになりました。私たちは元の世界に戻りましょう。」までである。　本文で展開された物語の続きを示している。全ての出来事が終わった後、最後の一文で「私たち」という言葉を用いることによって、聞き手の焦点を現実世界に戻す役割を果たしている。

第 2 節　トルコ昔話の定型表現[39]

トルコ昔話は散文体で書かれているが、しばしば韻文的な要素に遭遇する。トルコ昔話に見られる一定の形式を持つ句のことを、定型句という。

定型句のないトルコ昔話も存在するが、これがないと昔話独特の味や雰囲気が出ないのも事実である。そのため、語り手は定型句を好んで用いる。さらに、語り手は個性的な独自の定型句を生み出そうと努める。

サイム・サカオールは、トルコ昔話の定型句を、次の 5 種類に分類している。A. 発端句、B. つなぎ・経過の定型句、C. 類似した状況で用いられる定型句、D. 結末句、E. 様々な定型要素。それぞれの特徴を以下に述べる。

---

[39] 本節は、Sakaoğlu, *Masal Araştırmaları*, p.56-68 による。

第１項　発端句

この定型句は、昔話のメインとなる出来事が起こる前に用いられる。冒頭の定型句が語られる目的は、語り手や聞き手が昔話の世界に入る準備をするためである。多様な構成、長さのものがあるが、近年の語り手は、短いものを好んで用いる。しかし、熟練した語り手は、シンプルな定型句に加えてテケルレメという言葉遊びを用いることによって、昔話の冒頭を彩る。

A1. シンプルな発端句

基本的に「むかしあったことか、なかったことか」（Bir varmış, bir yokmuş）もしくは「むかしの時間の中で」（Evvel zaman içinde）が使われることが多い。時には、それらの複合形が使われることもある。

「むかしあったことか、なかったことか」の系統としては、「むかしあったことか、なかったことか、（主人公）がいたそうな」（Bir varmış, bir yokmuş, bir ... varmış）のように、発端句の中に、主人公の名前を付け加えるものがある。また、「むかしあったことか、なかったことか、神の他には誰もおらなかったそうな、（主人公）がいたそうな」（Bir varmış, bir yokmuş, Allah'tan başka kimse yokmuş, bir ... varmış）という発端句もある。

『ものぐさ太郎』『鈴付きしっぽのキツネ』では「むかしあったことか、なかったこなか」系統の発端句が用いられている。

同様に、「むかしの時間の中で」の系統としても、「むかしの時間の中で、（主人公）がいたそうな」（Evvel zaman içinde bir ... varmış）と発端句の中に、主人公の名前を付け加えるものがある。

またこれらの複合系の発端句も存在する。「むかしあったことか、なかったことか、むかしの時間の中で、（主人公）がいたそうな」（Bir varmış, bir yokmuş, evvel zaman içinde bir ... varmış）がその例である。

A2. テケルレメ付きの発端句

A1.で挙げたシンプルな発端句に、テケルレメという言葉遊びが付け加えられた発端句である。このテケルレメはシンプルな発端句の前に追加されることが多いが、後に付け加えられることもある。テケルレメを加えることで、聞き手に昔話の世界に慣れさせる目的が

ある。昔話では、現実世界では目にしない登場人物が現れうる。また奇怪な出来事が起こりうるからである。

「むかしの時間の中で」というシンプルな発端句の後に、テケルレメが付いた発端句の例を次に示す。「むかしの時間の中で、らくだが行商人だった頃、のみが床屋だった頃、おばあちゃんがゆりかごをゆらゆら揺らしている頃、（主人公）がいたそうな」（Evvel zaman içinde, develer tellâl iken, pireler berber iken, ben anamın beşiğini tıngır mıngır sallar iken bir ... varmış）

第 2 項　つなぎの定型句

トルコ昔話において重要な役割を持つこの定型句の主な働きは、出来事の変化・経過を示すことである。また、つなぎの定型句があることで、それまでに聞き手が創り上げた昔話の世界を崩さず、昔話の世界を新鮮なまま保つ手助けをしている。つなぎの定型句には 4 種類ある。

B1. 昔話における場所・主人公を変えるために使われるつなぎの定型句

これは、聞き手の興味を増すために効果を発揮する。まるで語り手と、昔話の主人公が知り合いであるかのような表現である。例えば、「（主人公）からの知らせを皆に教えてあげよう」（Sana haberi verelim ... dan）や「来てごらん（主人公）からの知らせを教えてあげよう」（Gel haberi ... dan verelim）などがある。

また、疑問文を聞き手に投げかける定型句も存在する。「君（聞き手）にどこから話しましょうか？王には 3 人の娘がいました」（Sana haberi nereden verelim? Padişahın üç kızı var）「誰のことから話しましょうか？怠け者のアフメットから」（Haberi kimden verelim? Tembel Ahmet'ten）のような定型句である。

B2. 聞き手の注目を増加させるために使われるつなぎの定型句

物語の流れを一時的に止めるような出来事が起きた時に、聞き手の注目を惹きつけるために用いられる定型句である。この例として『キョセの話―鳥足何本』では、「ふと気付くと、墓の中から赤ん坊の泣き声が聞こえます。」の「ふと気がつくと」（bakmış ki）部分が挙げられる。この時キョセの妻は、墓の中には夫が寝ていると思っており、まさか墓に赤ん坊がいるとは予想していない。夫の墓から赤ん坊の泣き声を聞いた妻が驚く様子に、聞

き手の注目が集まる部分といえる。

B3. 長時間を端的に表現するために使われるつなぎの定型句

この定型句は、出来事の経過に時間が掛かる場合、聞き手の集中を切らさないために用いられる。語り手が聞き手を飽きさせないために生み出した知恵である。『ものぐさ太郎』の「ただずっと座るだけでした。」（oturur oturur）の部分では、主人公が山でヘビに出会ってから、お腹が空いて最初の願い事をするまでの描写が省略されている。また、『鈴付きしっぽのきつね』の「7 年が過ぎて、更にまた 7 年が経ちました。」（Yedi yıl gitmiş, yedi yıl da gelmiş）の部分では、キツネの旅立ちから帰宅までの描写を省略している。長い年月を端的に表現することで、テンポのよい語りになっている。

B4. 昔話の中間で経過を伝える定型句

昔話の中で、移動があるときに用いられる。最もよくもちいられるのは、「（主人公は）少し行きます、長く行きます」（Az gider, uz gider）という一文である。実際には「少し」az ではないくらいの長い距離であっても、このように表現される。または、「少し近づきます、結構近づきます（来ます）」（Az gelir, uz gelir）のように、前述の「行く」の代わりに「来る」が用いられる場合もある。その他、「ああ、父さん、そこで待って、ここで待って。天井の広さくらい、針の長さくらいの道を進みました。」（Ha babam şurada dur, burada dur, tavanın enince, iğnenin boyunca yol giderler）のような言葉遊びをしたものも存在する。

第 3 項　類似した状況で用いられる定型的言い回し

この定型的言い回しは、同じような出来事が繰り返し起きたことを、聞き手に気づかせる役割をもつ。例えば、昔話の中で何度も繰り返される主人公の発言や、語り手が用いる言い回しのことを指す。

C1. 対話形式の定型的言い回し

登場人物同士の対話が定型的言い回しとなっていることがある。『キョセの話―鳥足何本？』ではキョセが「鳥足は何本だい？」（Ayak kaç?）と聞くと、妻は決まって「3 本よ。」（Üç）と答える。このやり取りは、6 回繰り返されている。

C2. 人物や行動を描写する定型的言い回し

この定型的言い回しを用いて描写されるのは、主に美しい女性や巨人である。女性は月に例えられることが多く、中でも第 14 日目、第 15 日目の満月に例えられる。例えば、女性について「月の第 14 日目のようだ。」(Ayın on dördü gibi)「月の光のようだ。」(Ayın nuru gibi）という描写がある。

またこの定型的言い回しは、主人公が何かに急いでいる場合や、テンポよく次々に出来事が展開する場合にも用いられる。『鈴付きしっぽのキツネ』の「猫はネズミに飛びつき、ネズミは羊飼いのおできに飛びつき、羊飼いは犬に、犬は怪獣に、怪獣は雄牛に、雄牛は水に、水は火に、火は斧に、斧は松の木に飛びかかりました。」（Kedi fareye atlamış, fare çarıklara atlamış, çobanın çarıklarına, çoban köpeklere, köpekler canavara, canavar öküze, öküz suya, su ateşe, ateş baltaya, balta çama atlamış.）の部分が例である。

C3. 主人公の語りの定型的言い回し

主人公がある状況を説明したり、願望や呪いの言葉を口に出したりする場合がある。これらの場合は、主人公の語り自体が定型的言い回しなのである。具体例は、『ものぐさ太郎』で繰り返される「ぼくはものぐさだから」（Üşenirim）という主人公の語りが挙げられる。

C4. 語り手の立場から出来事を説明する定型的言い回し

『ものぐさ太郎』では、「さて、親子のことは置いておきましょう。昔話では時間が早く流れるのです。」（Onlar orda oturadursunlar. Masallarda vakit çabuk geçermiş）と言って語り手が、状況を説明している。

第 4 項　結末句

語り手の熟練度と、聞き手の集中度によって結末句は大きく異なる。熟練した語り手であれば、沢山の定型句を知っているため、その中から適切なものを選択することが出来る。例えば、聞き手の集中が散漫であれば、短い結末句で早めに話を切り上げることができる。

D1. 短い結末句

シンプルで飾りのない結末句のことである。次のような場面で短い結末句が用いられる。

例えば『鈴付きしっぽのキツネ』の「キツネは松の木から鈴を手に入れて、そのまま歩いていきました。」（Tilki de zilini almış çamdan, yoluna devam etmiş）がこの例である。他にも「飲んで、食べて、楽しみました」（Yiyip içip yaşarlar）「平和に暮らしました」（Muratlarına ererler）などがある。

D2. 物語の続きを示す結末句

物語の続き、主人公のその後を示す。『キョセの話―鳥足何本』の結末句は、「知事夫人は、キョセの妻を大変気に入り、側近にしました。キョセは、もはやどこかへ行ったのでしょう。自分が一本の鳥足に執着したせいで、妻や他人に迷惑を掛けたことをキョセは今更知ったのでした。」というように、物語のその後を語っている。

D3. 物語の要約をする結末句

物語をことわざで要約したり、教訓を得たりする結末句のことである。例えば、「古人は言ったものだ。善に善行は皆のご利益、悪に善行は個人のご利益。」（Eskiler derler ki, iyiliğe iyilik her kişinin kârı, kötülüğe iyilik er kişinin kârı）「善行をしなさい、それを海に捨てて忘れなさい。そのことを魚は知らなくとも、創造主は見ている」（İyilik yap, denize at, balık bilmezse Hâlik bilir）などでみられる。

D4. 唐突な結末句

物語が非常に短い場合、または予想外の結末を迎える場合、この結末句が用いられる。D1.では、「飲む」「食べる」「暮らす」といった動詞が使われるのに対し、こちらは「終わる」を意味する動詞以外は用いられない。「この物語はここでおしまいです。」（Bu hikâye burada bitti）「キョセの物語もおしまいです。」（Kösenin hikâyesi de bitti）がその例である。

D5. 私的な結末句

私的な結末句では、物語の世界のことだけでなく、語り手や聞き手についての言及がある。語り手・聞き手を昔話に巻き込む終わり方をするのが、これである。例として、「空からリンゴが 3 つ落ちました。その内 2 つは聞き手のみなさんに、一つは語り手の大きな口に。」（Gökten düştü üç elma, ikisi dinlenyenlere, biri de söyleyen boşboğaza）「彼らは幸

せになりました。私たちもここで幸せになりましょう。」(Onlar orada selâmete ererler, biz de burada selâmete erelim）が挙げられる。『ものぐさ太郎』では、「私たちは元の世界に戻りましょう。」（biz çıkalım kerevetine）という結末句が用いられている。語り手と聞き手があたかも物語の世界に入り込んでいたかのような表現をすることで、聞き手が登場人物に親しみを覚えるという。

第 5 項　数・色・場所の定型表現

トルコ昔話の語り手は、以上に挙げた定型句・定型的言い回しの他にも、数・色・場所に関連した定型表現を用いる。それは、より昔話らしい語りをすることが目的である。一方、聞き手側もこのような昔話特有の定型表現を期待している。例えば、ある任務の遂行に必要な日数は必ず「40 日」である。主人公は「3 つ」の難題を解決した後、愛する人と結婚する。巨人は必ず「7 つ」の頭をもつ。数と同様、場所においても定型表現がある。

E1. 数

ヨーロッパの昔話では数字の 3 がよく用いられる。これに加えて、トルコ昔話では数字の 7 と 40 も、重要な数となっており、多くの昔話で目にすることができる。以下に例を挙げる。「三人姉妹、三人兄弟」「三つの頭をもつ巨人」「3 つの分かれ道」「7 頭のらくだが運搬可能な量の金」「40 日 40 夜」「40 人の強盗」また、昔話例として挙げた 3 編にもそれぞれ数の定型句が見られる。『キョセの話―鳥足何本？』では「出産後 40 日が経ちました。ハマムで、クルク・ハマムという生後 40 日に行われる儀式が行われることになっていました。」の部分、『ものぐさ太郎』では「王は 40 日 40 夜、結婚式を開いてあげました。」、『鈴付きしっぽのキツネ』では、「7 年が過ぎて、更にまた 7 年が経ちました。」の部分がそれである。

E2. 色

家具、動物、洋服の色が語られることで、イメージの世界が彩られる。トルコ昔話では、赤、白、黒は頻出する。例えば、「赤い馬」「赤いドレス」「色白の女の子」「真っ白な手」「色黒の女の子」「黒い旗」などである。一方で、黄、ピンク、緑は滅多に使わることがない。

E3. 場所

トルコ昔話で出現する国の数はあまり多くない。大概、「故国のどこかで」と表現される。トルコ昔話に登場するのは、イスタンブルよりも東に位置する国や都市である。例えば、インド、イエメン、エジプト、ダマスカス等である。イスタンブルもトルコ昔話においてよく見られる地名である。実際に『キョセの話―鳥足何本？』では「そのキャラバンにはアレッポ県知事夫人がおり、妊娠していたのでした。」という一文の中で、アレッポが登場している。

昔話に、地域や場所の名前を取り込むことによって、聞き手は距離感を掴むことができる。語り手はより具体的な話にするために、地名を用いるのである。例えば、「ケルキットの商人はエルジンジャンへ行商に行きました」「バイブルト人は仕事にエルズルムへ行きました。」などである。現実世界の位置関係を昔話に取り入れることで、聞き手の理解を助ける役割をする。実際の村名や山の名前も、同じ目的で用いられる。

このように、トルコ昔話の典型的な特徴が、第 3 章で挙げた昔話にも現れていることが確認できた。3 編の昔話から読み取ることのできる定型表現以外にも、トルコ昔話では多様な定型表現が用いられている。

終章

まず、本稿の展開を振り返る。第 1 章では、トルコ民間伝承研究が 19 世紀から始められたこと、政府による弾圧などの紆余曲折を経て、一つの学問分野として現代に存在していることが明らかになった。またトルコ昔話収集については、トルコ人がトルコ昔話を意識していなかった時代、外国人研究者の活躍が目立った。彼らの研究のお陰で、トルコ国内でもトルコ昔話の重要性が見直されるようになったことを述べた。また、トルコ民話は様々な外国語に翻訳されてもいる。続く第 2 章では、トルコ昔話の成立、変遷について確認した。さらにトルコ昔話の全体像をみるために、分類されたトルコ昔話を項目別に見ていった。第 3 章では、本格昔話の例として『キョセの話―鳥足何本？』『ものぐさ太郎』を、形式譚の例として『鈴付きしっぽのキツネ』を紹介した。第 4 章では、トルコ昔話の形式について解説した。まずトルコ昔話の 3 部構成を『ものぐさ太郎』の例で確認した。その後、第 3 章で挙げた昔話とその他の例を用いて、様々な定型表現についてみていった。トルコ昔話の定型的な言い回しは、実際のトルコ昔話のテキストからも読み取ることができた。

トルコ語のテキストで、トルコ昔話の形式を確認できたことで、3 部構成や定型表現が、トルコ昔話に欠かせないものであることが分かった。昔話の典型的な論理展開や、多くの箇所に見られる定型表現には、聞き手により豊かな昔話の世界を想像させる魔力がある。トルコ昔話に見られるこのような形式的な部分こそ、聞き手が昔話に求めるものなのではないかと思った。

本稿では、トルコ昔話における形式的な特徴を解説したが、今後、モチーフや主人公など昔話の内容についての研究を進め、ほかの国々の昔話との比較を行うことを課題としたい。

文献目録

- Doğan Kaya, *Türk Halk Edebiyatı Terimleri Sözlüğü*, Akçağ Yay., Ankara, 2007
- Dursun Yıldırım, *Türk Bitiği*, Akçağ Yay., Ankara, 1998
- M.Öcal Oğuz, *Türk Halk Edebiyatı El Kitabı*, Grafiker Yay., Ankara, 2004
- Pertev Naili Boratav, *100 Soruda Türk Halk Edebiyatı*, Gerçek Yay., İstanbul, 1969
- Pertev Naili Boratav, *Az Gittik Uz Gittik*, Istanbul, İmge Kitabevi Yay., 2006（1969年に出版された著作の復刻版）
- Saim Sakaoğlu, *Masal Araştırmaları*, Akçağ Yay., Ankara, 1998
- Saim Sakaoğlu, *Gümüşhane ve Bayburt Masalları*, Akçağ Yay., Ankara, 2002
- Şükrü Elçin, *Halk Edebıyatına Giriş -Gözden geçirilmiş ilaveli yeni baskı*, Akçağ Yay., Ankara, 2005

- 新井政美『トルコ近現代史」みすず書房、2001 年
- ウラジミール・プロップ著、大木伸一訳『民話の形態学』白馬書房、1972 年
- 小澤俊夫編『昔話入門』ぎょうせい、1997 年
- 小澤俊夫編、鈴木満訳『世界の民話　8 中近東』ぎょうせい、1977 年
- 日本民話の会編『ガイドブック世界の民話』講談社、1988 年
- マックス・リュティ著、小澤俊夫訳『昔話　その美学と人間像』岩波書店、1985 年
- 山崎光子、松村武雄訳『世界童話大系　第 11 巻トルコ・ペルシア篇』名著普及会、1988 年（1925 年に出版された著作の復刻版）